

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書									
				学校番号	28	学校名	大垣桜高等学校		
社会的役割等 (スクール・ミッション)		豊かな人間性を育み、家庭・福祉教育をリードする高校として 専門知識や技術を活かした地域との連携・協働した学びを通して 生活産業や地域社会に貢献できるスペシャリストの育成を目指す学校							
学校教育目標 (教育方針)		(1)人間としての在り方・生き方を考えさせ、人間性豊かな生徒を育成する。 (2)専門知識・技術を生かして、生活産業や地域社会に貢献できる生徒を育成する。 (3)広く社会において、信頼と尊敬を得る社会性のある生徒を育成する。							
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・ 確かな学力の定着と家庭・福祉の専門的な知識・技術を身に付けるために、自ら学び自ら考え、主体的に学習に取り組む生徒 ・ 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を身に付けて、正しく判断し、主体的に社会に貢献しようとする生徒 ・ 望ましい勤労観や職業観を養い、職業人として必要な豊かな人間性と能力の伸長に努める生徒							
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・ 規律ある生活態度を身に付け、自ら判断し行動できる態度の育成 ・ 基礎的・基本的な学力の向上を図り、家庭・福祉の専門的な知識・技術を習得させ、一人一人の進路実現を支援 ・ 家庭や地域社会と連携・協働し、安全で安心な学校づくりを推進							
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ 基本的な生活習慣を身に付け、自ら学習環境を整えて充実した学校生活を送ろうとする生徒 ・ 家庭・福祉の専門的な学習をとおして、自ら課題を見つけ、解決し、地域社会に貢献しようとする生徒 ・ 情報モラルや規範意識の向上に努め、防災意識を高め、自分の命は自分で守るという強い意識をもった生徒							
学校の抱える課題		・ 自ら課題を見付け解決できるための確かな学力の育成と、創造力を育てるための主体的・対話的な学習指導 ・ 地域産業を担う将来のスペシャリストとしての資質・能力の伸長と、主体的・意欲的な学習態度の育成 ・ 特色ある学習内容の魅力化を図り、中学校・地域・企業へ発信する機会と手段の工夫							
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標							
	学習指導	・ 各教科・科目の目標を踏まえた工夫ある授業実践により、自律的な学習態度を定着させるとともに、自ら学ぼうとする学習態度の育成に努める。 ・ 主体的・対話的な授業をデザインし、「分かる授業」「意欲的に取り組む授業」の実践に努めるよう校内研修・授業改善を行う。							
	生徒指導	・ その時、その場でどのような行動が適切であるかを自分で考え、行動する自己指導能力を育成する。 ・ 共感的生徒理解を基盤とし、職員間の情報共有、共通理解、組織対応を徹底する。							
	進路指導	・ 社会において信頼と尊敬を得る人材を育成するために、基本的生活習慣、豊かな教養やマナーの定着、基礎学力の向上のための指導を充実する。 ・ 進路指導に対する全職員の共通理解を深め、高校3年間を見通した計画的・組織的なキャリア教育を行うとともに、ガイダンス機能を充実する。							
	その他	・ 専門科目に関する基礎的な知識・技能を定着させ、各学科の専門的な分野の学習を深め、生活産業界や地域社会で活躍できる生徒を育成する。							

年 度 目 標					年 度 末 評 価 (自 己 評 価)				
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標		取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D	
学習指導	生徒が理解し意欲的に取り組める授業の実践ができるよう、 校内研修を充実させると同時に授業改善に努め、主体的・対 話的な学習活動を工夫する。	施策Ⅱ-8	公開授業の活性化 授業参観報告		公開授業週間や研究授業の参観を活用し、授業 改善に努めることができた。基礎学力の定着や生 徒の言語能力育成に向けて、論述の機会を取り入 れたり、課題に取り組ませるなど、授業内容の工 夫もできた。教員が一生懸命で多面的な評価がさ れていると認めている生徒が多いことがわかる。 授業の中でI C Tの活用が出来ている教員が多 いが、タブレットの通信トラブルもあり、十分に 活用できていない授業もある。 ・学校関係者評価 学習指導に関する項目 生徒A B 回答平均 79.0%	B	○家庭・福祉の専門的な学習を通して生徒の 「コミュニケーション能力」や「思考力・判 断力・表現力」の育成をする中で、地域社会 に貢献しようとする生徒の育成ができてい る。 ▲各授業クラスごとにTeamsを使用できるよ うにしたが、活用頻度に差が大きい。休校や 学級閉鎖時等に備え、オンライン授業をス ムーズに進めるためにも習慣づけたい。		
	指導目標と指導規準を明確にし、教材、教具の工夫や指導方 法と効果的なI C T活用の研究を継続する。	施策Ⅱ-9	学校関係者評価						
	基礎学力を定着させ、自らの学びに興味・関心をもたせると ともに学習習慣の確立を図る。	施策Ⅱ-8							
生徒指導	身だしなみを整え、T P Oに応じた挨拶・会釈・正しい言葉 遣いを身に付けさせるとともに時間管理能力を育成する。	施策Ⅰ-1	遅刻のべ人数		日々の生徒指導に加え、臨時放送や集会等で身 だしなみ、遅刻、交通安全、情報モラル等につ いて様々な注意喚起を行ってきた。 ・11月末時点において遅刻者数は昨年度よりも スローペースではあるものの、すでに1,000件を 超えており、コロナ禍前の水準からは程遠い。 ・自転車通学者の交通事故が増加。 ・情報モラル違反の指導件数は減少傾向。 ・「心のアンケート」「いじめに関するアンケ ート」により早期対応ができています。	B	▲生徒の様子が変化し、対応の仕方も年々難し くなってきたと感じるが、人としての常識・良識等 については、強い意思をもって指導し、啓発して いくことが不可欠である。 ▲遅刻常習者とその保護者への対応を強化する必 要がある。 ▲道路交通法改正の内容をさらに周知していく必 要がある。 ▲教育相談室の待機職員が足りておらず、臨時で 空き時間の教員を割り当てているが、相談件数の 多い本校の実態を考えると危機的状況であり、職 員配置を再考する必要がある。		
	交通安全・不審者対策・情報モラルに関する指導を充実さ せ、安心・安全な学校を目指す。	施策Ⅲ-19	交通事故件数 情報モラル違反件数						
	教育相談を充実させ、いじめ防止について組織的に取り組 む。	施策Ⅰ-3	心のアンケート いじめに関するアンケート						
進路指導	自己の適性を正しく理解し、インターンシップや体験的な教 育活動を通して、望ましい勤労観・職業観を身に付けること ができるようにキャリア教育を推進する。	施策Ⅱ-13	生徒の進路実現 1回目の就職内定率		年度目標に沿って、計画通りに各学年に応 じたキャリア教育を推進することができた。 特に、3年生の就職・進学面接指導では、外 部講師による指導を取り入れ、コミュニケー ション方法やマナーを含めた総合的な支援を 実施した。また、担任を中心に、生徒および 保護者への情報提供に努めるとともに、個別 の小論文指導についても全校体制で丁寧に対 応することができた。 ・1回目の就職内定率:89% ・基礎力診断テスト「D3ー」全校：4%	B	○個別支援に注力し、就職先内定者についてはハロー ワークと連携し、最新の求人情報を基に適切な就職支 援を行った。公務員希望者に対しては、警察署や自衛 隊と協力し、面接指導など直接的な支援を実施し、イ メージギャップの解消に努めた。 ▲担任を中心に教員が丁寧な対応を行ったものの、生 徒の主体的な行動は十分ではなく、自発的な組み みを促す指導方法の工夫が必要である。 ▲基礎学力診断テストの結果は、昨年度4%だった学習 到達ゾーン「D3ー」の生徒が4%強に増加しており、 基礎学力の底上げが課題である。 □ □ □ □ □	B	
	キャリアコンサルティングの面接指導を通して、社会的・職 業的に自立するための教養とマナーを身に付けることができ るように支援する。	施策Ⅰ-1	基礎力診断テスト結果						
	主体的に進路選択を行い、保護者の理解・協力が得られるよ うに家庭と学校で連携をとり、ガイダンス機能を充実させ る。	施策Ⅰ-7	学校関係者評価						
その他	学科の特徴や生徒の実態を把握し、確かな学力の育成や専門 的・実践的な指導を行うための授業研究に務める。	施策Ⅱ-14	学校関係者評価 各種検定・資格取得率		学科の特徴を生かした授業内容を新聞等で取り上げても らえた。また、中学校へ出向きPR活動を行うことができ た。学力の育成と個々への対応を図るため、授業、放課後 の個別対応やICT機器の活用工夫、課題・プリントの工夫 を行った。各学科の学びを深める内容で地域連携を行うこ とができた。地域の企業、施設、団体との協働を通して、 社会の課題やニーズに答えるための体験や学びができた。 ＜生徒を対象とするアンケート＞よくあてはまると回答した％ ・外部（地元自治体、地元企業等）との連携を生かした教 育活動に積極的である。R6（64.6％）→R7（70.7％） ・専門的な学習を通して、地域社会や生活産業に貢献でき る人材を育成している。R6（85.7％）→R7（85.1％） ＜保護者・学校運営協議委員会を対象とするアンケート＞ ・専門的な学習を通して、地域社会や生活産業に貢献でき る人材を育成している。R6（77.6％）→R7（79.5％）	B	○個々に差はあるが、確実に学年を重ねることによ って成長が見られる。また、多種多様な学習活 動を行うことで、個の特技を生かすことができ、 多くの生徒の活躍の姿が見られた。 ▲自分の成長を自覚できていない生徒もあり、進 路や人間関係で悩む姿が見受けられた。授業や実 習での成果を継続的に生徒自身が記録し、成長や 興味の変化の見える化で、自己肯定感を高めると ともに、学習目標の設定や自己分析、進路決定の 一助にも繋げていきたい。		
	地域と連携・協働や様々な実習・研修を通して職業・勤労に 対する意識を高める。	施策Ⅰ-4	地域担い手事業等評価						
	地元企業や学校と連携した実践的な取組で、専門教科の学び を深め、将来について考える機会を設ける。	施策Ⅱ-13							

来年度に向けての改善方策等				実施日：令和7年12月18日			
・学習指導に関する学校関係者評価には、生徒の回答と保護者の回答に差がある。学校での学習指導や生徒の成績評価、外部機関との連携等の学校活動について保護者の認識が不十分だと考えられる。保護者に解り易い情報発信が必要である。（教務） ・「生徒指導部」「教育相談係」「養護教諭」「スクール相談員」「特別支援教育支援員」の連携や情報共有について検討する。（生徒指導） ・ICT機器を有効に活用した生徒の活動の記録（ポートフォリオ）づくり。（家庭・福祉部）				学校関係者評価			
				実施日：令和7年12月18日			
				・学習・生活指導に加えて進路指導の必要性があるため、1年次から将来を見据えた指導を継続してほしい。 ・卒業研究作品発表会は3年間の集大成として、すべての学科が主体的な学びの姿を見せてくれた。コロナ禍でできなかった仲間との高め合いに期待している。 ・社会に出てからも必要なことを教えていってもらいたいため、外部との繋がりがりや支援も必要。 ・ICT活用が進んでいるが、新1年生からタブレット持参になることもあり機種の違いも生じる予想がつくため、教師の機器対応の技量も上げてほしい。 ・教育相談室の現状を確認したが、今後もきめ細かく対応してほしい。			
				学校運営協議会委員から、自校評価に対する評価と来年度に向けての提案をいただいた。 今後も、地域との交流を大切に、支援をいただきながら魅力ある学校づくりを推進していきたい。			